

糸満の魅力を生かした観光★イベント!

糸満市では、市長をはじめ、市民や関係者が出席し、まちづくりなどについて、その思いや意見を述べ合う場として毎年座談会を開催しています。今年度はコロナ禍が落ち着き、イベントが多く開催されました。そのような中で、イベント関係のお仕事をされている人を座談会に招き、今後取り組みたいことや、市の魅力を生かした観光やイベントについて、お話いただきました。

旧正月特集

座談会

あかまる



赤丸

糸満市出身のお笑い芸人。さまざまなイベントやライブへ出演を行いながら、自身もITOMAN29FESTAなどのイベントを主催し活躍している。

おおしろなおや



大城直也

糸満市在住のデザイナー。デザインインノベーションおきなわでクリエイティブディレクターとして市町村のPR活動のプロデュースを行っている。

やましるゆき



山城由希

(株)日本パイオテック代表取締役。真栄里で海ぶどうのつかみ取り体験やマリナクティビティなどの事業を行っている。

あらかきしげと



新垣重人

(株)OKINAWA EVENT FACTORY代表取締役。ピースフルイルミネーションや沖縄爬龍舟フェスティバルなどのイベントを手がけている。

イトマンマン



イトマンマン

市内に限らず、県内のさまざまなイベントに地域のヒーローとして参加している傍ら、市内保育園の誕生会などに参加し、地域貢献に努めている。

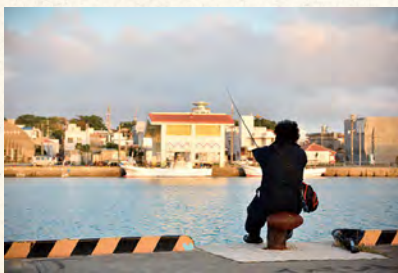
地域おこし協力隊
ルドさんが行く
#32

【時間の感覚】

数ヶ月前、沖縄県は「Blue zone」として人々の生き方が注目されていることについてこのコラムで触れましたが、ウチナンチュが昔からよくなーよんなーと暮らすことがその一つの大事な長寿の秘訣として挙げられていました。現代は、全国メディアの普及、国の統一した教育制度や県外から移住の増加によって、沖縄の地域独特な生活文化が薄れていっています。とはいえ、今でもウチナンチュが独特な時間の感覚を持っていると認識されています。特に内地の人から「ルーズ」、「沖縄タイム」や「デーグ」などをキーワードに、茶化して冗談の矛先にもなりがちな時間を守れない県民性のイメージが薄々と定着しています。糸満市民として3年目の生活を送っている私にとって、時間の感覚が異なっていることを肌で感じています。果たして、それは根拠があるか?ただの固定観念なのか?と気になって、少し深掘りしてみました。

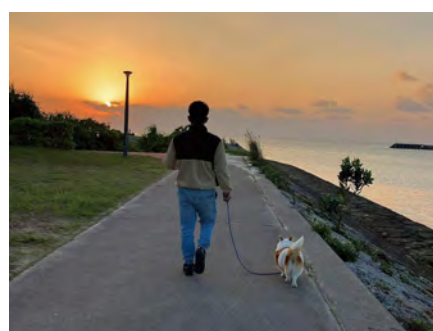
残念ながら、沖縄文化に詳しい学芸員により「沖縄時間」を学問的に分析した論文はないそうです。メディアなどで使われている「沖縄タイム」や「ウチナータイム」などの言葉自体はどうやら、大企業などの転勤族が作った言葉で、そして、公私も分けて、ビジネスの場面というより、プライベートの時間に適用されている概念が分かりました。

と「モノクロニック」(monochronic)な文化が研究やエッセイで広く採用されています。簡単にまとめるとモノクロニック文化では「時間は資源だ」と考えて、物事を「個ずつ取り組んで、時間厳守の文化」です。ポリクロニックでは「時間に融通をきかせ、柔軟さを重視する文化」または「人間関係を重視する文化」と言われています。世界の国の棲み分けを見ると、日本は欧州の国と同じくモノクロニックの括りに入られますが、個人的に沖縄は暖かい気候の南米・中東などの文化に寄っているのではないかと思います。「異文化間心理学研究誌」の研究では、世界の31カ国の比較で見ると、モノクロニック文化は経済的に生産性が高いが、ストレスが溜まる、心臓病などの健康にも悪影響が出ていて、ポリクロニックは逆に生活のペースが遅めで、主観幸福度は高い傾向であると分かっています。まさに、日本の都道府県のランキングで、沖縄は幸福度が1位、一人当たり所得が下位のパラドックスを理解する一つの鍵かと思っています。



夕暮れに糸満漁港で釣りをする様子は、まさにスローライフ

#糸満PR大使



_okimamaさん
真っ赤に染まった南浜公園の空。夕日に向かって、愛犬との散歩すてきですね。

糸満の魅力をゆる〜く発信。ぜひ、フォローしてみてくださいね。



今月の題字

あらかき 新垣 斥淳さん

今月号の題字は津山幼稚園に通う新垣斥淳さんです。斥淳さんは「ん」の文字が難しかったけど、「ま」が上手に書けた。幼稚園でも勉強しているけど、4月から1年生になるから、算数と国語の勉強を頑張りたいです」と新1年生の抱負を話しました。



これまでに行った取り組み

市長

新型コロナウイルスが昨年5月に感染症法上の5類に変わり、さまざまな行事が再開できるようになった中で、行事に参加された市民から「ありがとう」、「楽しかった」と笑顔で声をかけてくれることが非常に嬉しくなりました。本日お越しの皆さんから貴重な意見をいただき、参考にしながら糸満市のさまざまな分野の発展に繋がっていききたいです。本日はよろしく願います。

新垣

糸満生まれの新垣重人といいます。私はイベントをしたいということで会社を作り、沖縄爬龍舟フェスティバルやカスタムマシンコンテストなどを開催しています。昨年は沖縄市で行われた沖縄モーターショーでプロデュース業務を行いました。今日はよろしく願います。

赤丸

サンミュージック沖縄プロダクション所属お笑い芸人の赤丸です。糸満市出身です。10年ほど東京で過ごしていて、その間に東京で培ったことで活動をしていきたいと思っています。よろしく願います。

大城

クリエイティブディレクターの大城直也です。赤丸さんと同じく、15年ほど東京にいました。潮崎町に8年前に移住し、現在は沖縄コンベンションビューローのプロモーション事業やイベント事業に関わっています。

沖縄県糸満市 Itoman City

■人口

	1月	前月比
人口	62,582	-21
男	31,709	-6
女	30,873	-15
世帯数	28,567	33

■火災・救急

	1月	前年比
火災	1件 (1件)	-1 (-1件)
救急	316件 (316件)	-17 (-17件)

※()内は令和6年の累計

- 面積 46.60Km² (2021年10月1日現在)
 - 市の花木 ブーゲンビレア ■市の木 ガジュマル
 - 市の花 日草 ■市の魚 タマン
- (人口、世帯数、火災・救急件数は2024年1月末現在)

広報 ITOMAN

「声の広報」届けます

目の不自由な人に糸満市の情報を届けるため、広報いとまんをCDに吹き込み配布しています。「声の広報」を希望する人は、秘書防災課(☎840-8118)まで問い合わせてください。

ラジオ広報・市役所便り (FMたまん)

- 月～金
- ① 7時45分～7時50分
- ② 12時55分～13時
- ③ 17時55分～18時
- 土～日
- ④ 12時55分～13時